

令和8年度 学校経営計画

富山県立高岡支援学校

1 学校教育目標

自立と社会参加を目指し、健康な心身の育成と社会生活に必要な生活能力の育成を図る。

＜校訓＞ あかるく元気な子 なかよく助けあう子 力いっぱいがんばる子

2 学校の特徴

本校は、知的障害のある児童生徒を教育の対象とする特別支援学校として県下で最も早く設置された学校である。小学部・中学部・高等部の三つの学部で構成されており、障害のため通学して教育を受けることが困難な児童生徒のための訪問教育や、集団生活を通して生活自立を目指すための寄宿舎が併設されており、本年度は全校児童生徒254名が在籍している。個々の教育的ニーズを的確に把握し、個別的教育支援計画等を活用し、保護者や関係機関と連携を図った小・中・高一貫した指導・支援に努めている。

教育方針は、以下の4点である。

- ① 人間尊重の精神を基盤とし、心の触れ合いを大切にした教育を行う。
- ② 自立と社会参加を目標とし、一人一人の教育的ニーズに応じた教育の充実に努める。
- ③ 心身の健康の維持増進と安全教育を重視し、体づくりと事故防止に努める。
- ④ 家庭や地域及び関係機関との連携を密にし、効果的な教育を推進する。

3 学校の現状と課題

- ・児童生徒数の増加に伴い中軽度から最重度まで様々な知的障害の程度の児童生徒が在籍するとともに、自閉症等の発達障害をはじめ様々な障害を併せ有する児童生徒や外国にルーツのある児童生徒も増加する中で、一人一人のウェルビーイングの向上に向けた授業の在り方が課題となっている。
- ・PTA、地域並びに医療、福祉及び労働等の関係機関と連携し、児童生徒の多様なニーズに対応する体制を作る。
- ・地域の小中学校との交流及び共同学習や、中・高等部段階では社会参加に向けた地域交流を行っている。知的障害の程度が比較的軽い児童の学びの場の見直しも含め、小学部段階では居住地校交流を推進していく必要がある。
- ・障害のある児童生徒への指導・支援についての専門性を高めるため、特別支援教育コーディネーターや研修部を中心に、特殊教育から特別支援教育への流れを踏まえ、指導と支援の違いを明確にしたPDCAサイクルによる授業づくりを進める。また、地域の小・中学校等に向けた特別支援教育のセンター的機能としての専門性を発揮していく必要がある。
- ・障害のある人の生涯学習への機運の高まりを踏まえ、部活動をはじめ様々な機会をとらえてスポーツや文化芸術に関するイベント等への参加を推進するなど、地域の事業所や住民等の協力を得て、キャリア教育活動を推進する。
- ・地震、土砂災害等、様々な災害への備えや犯罪被害の防止、感染症対策等に向けた施設設備等の充実に取り組む必要がある。

4 学校教育計画

項 目			目標・方針及び計画	
1	学 習 活 動	教務	目標	・学習指導要領に示された目標及び内容を踏まえた指導を行い、学習状況を適切に評価し、指導・支援方法を振り返り改善できるよう、個別の指導計画（学習の記録）を活用して、指導・支援の充実を図る。
			計画	・本校の児童生徒の実態、学習指導要領の育成する資質、能力を踏まえ年間学習指導計画の単元や指導内容を検討する。 ・個別の指導計画の意義や機能、本校の学習の記録の活用の仕方について、マニュアルや会議等を通じて、周知する機会を設ける。
		各学部	目標	・児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた、効果的な学習指導及び支援に努める。
			計画	・各教科等の目標と内容や児童生徒の実態に応じた指導方法について、共通理解を図る機会を設定し、一人一人の指導・支援に生かしていく。
		研修 重点Ⅰ	目標	・児童生徒が主体的に学習に参加する姿の育成を目指し、学習の繋がりや発達段階に応じたねらいや支援について検討し、授業づくりを行う。
			計画	・縦断的なグループで学習内容等について話し合う。授業実践を通して、児童生徒が安心して学習に参加し、成功体験を積み重ね、主体的に学習に向かうための指導、支援の在り方を検討する。
		情報	目標	・タブレット端末やプロジェクタ等のＩＣＴ機器利用環境の整備や安全かつ効率的な情報管理運用を図る。 ・職員のＩＣＴ活用能力・技術の向上を目指し、授業等において積極的な活用を図る。
			計画	・執務用ＰＣやタブレット端末等のＩＣＴ機器を授業や校務で効果的・効率的に活用できるよう、環境を整える。 ・授業準備や分掌業務等を効率的に進めることができるよう、共有データの整理・精選を行う。 ・会議や授業等においてＩＣＴ機器を積極的に活用できるよう、ＩＣＴ機器の活用方法やアプリケーションに関する研修を行ったり、ＩＣＴ機器を活用した授業研究を実施したりする。
2	学 校 生 活	保健	目標	・児童生徒が健康で安全な生活を営むことができるようにする。
			計画	・日常生活における健康な生活習慣について児童生徒の意識を高める。 ・家庭との連携を図り、好ましい習慣形成を図る。 ・緊急時の対応や感染防止等に関する基礎的な知識の研修や校内環境の整備を行うことにより、教職員の危機管理に対する意識や対応力の向上を図る。
		生徒指導	目標	・災害時における安全指導の充実を図る。
			計画	・災害対策訓練を年３回以上行う。 ・教職員の防災に対する意識の向上を図る。 ・防災に関する危機管理マニュアルの見直しを図る。

		寄宿舎 重点2	目標	・一人一人に応じた自立を目指し、生活支援の充実を図る。 ・舎生が寄宿舎で安心安全に過ごすことができるようにする。
			計画	・舎生の実態や行動特性等を「生活チェックリスト表」や「寄宿舎生活の記録」を用いて共通理解を図る。 ・行事や交流活動、グループ活動などを通して経験を積み、余暇の充実を図る。 ・様々なケースを想定した避難訓練や感染症対策、投薬管理を実践する。また、ヒヤリハット事例を共有することにより、危機管理に対する職員の意識や対応力を向上させる。 ・防災（地震）に関する知識や技能を習得するために、研修や訓練の場を設けるとともに、日頃より地震に備えた環境整備に努める。
3	進路支援	進路指導	目標	・生徒が主体的に進路選択できるように系統的に支援したり、保護者に適切な情報を提供したりできるように、教員の資質向上を図る。
			計画	・障害者雇用、障害福祉サービスに関する研修の機会を設ける。 ・地域の事業所の情報収集に努め、最新の情報を提供する。 ・生徒の特性や家庭の状況を踏まえた進路指導ができるように、担任や学年主任と情報共有しながら進めていく。
4	特別活動	特活	目標	・将来にわたってスポーツ・文化芸術活動等に継続して親しむことができる能力や態度を養うために、地域の事業所や住民等の協力を得て、スポーツ・文化芸術等の生涯学習活動への参加を奨励する。
			計画	・地域でのスポーツ・文化芸術等の生涯学習活動についての情報を積極的に児童生徒や保護者に案内し、生徒の興味・関心に応じた適切な活動を選ぶことができるようにする。 ・児童会活動、生徒会活動、部活動等において、地域の事業所や住民等と連携した活動を取り入れるようにする。
		図書	目標	・読書環境の充実を図り、児童生徒の読書に対する興味・関心を高め、読書活動の推進を図る。
			計画	・児童生徒が利用しやすい図書室の環境づくりを行う。 ・生徒会図書委員会を中心として児童生徒にとって親しみやすい図書の紹介を行う。 ・児童生徒の生活年齢や発達年齢、障害の特性に応じた図書を選定し、移動図書、読み聞かせの会、校内読書感想画コンクールを実施する。
5	その他	教育相談	目標	・センター的機能の充実を図り、地域の幼稚園、保育園、認定こども園、小学校及び中学校、義務教育学校、高等学校（以下小・中学校等）に在籍する幼児児童生徒等を支援する。
			計画	・地域の小・中学校等へよりよい支援の提案や情報提供ができるように、デジタル教材や資料等の校内資源の整理・整備を行うとともに、それらの電子データ化を進め、より利便性を高め、地域支援に活用する。
		総務（PTA）	目標	・PTA活動の企画、運営をサポートし、持続可能なPTA活動の推進を図る。
			計画	・委員が見通しをもち、活動を運営できるように見直した引継ぎファイルの内容や活用方法について有効性を検証し、改善する。
		開かれた学校	目標	・学校外の多様な人々と目標を共有し、意見を聞き、協力を得ながら社会全体で児童生徒を育む仕組みを強化する。
			計画	・教育後援会と協力し、「学校ボランティア」事業を実施する。地域住民や卒業生・保護者等の多様な人材と共に、学習環境や学習指導・学校生活の充実、特別支援教育への理解の推進に取り組む。

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和8年度 高岡支援学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動（研修）
重点課題	児童生徒の自己効力感を高め、主体的に学習に向かう姿の育成を目指した授業づくりの推進
現 状	昨年度の学校課題研究では、学習内容の系統性を意識した年間学習指導計画の整理や学習のねらいを明確にした授業づくりを行った。授業では支援がより充実し、主体的に学習に向かう児童生徒の姿が増え、児童生徒の自己効力感を高める必要性を再認識することができた。そして、これまでの学びと現在の学びのつながりをより意識した授業づくりや整備した年間学習指導計画を基にした授業づくりを実践していきたいという動きが一段と高まっている。加えて、少人数の話し合いによる研修は、他者の多様な考えに触れたり能動的に参加したりでき、今後も継続したいとの意見が多く聞かれたことから、今年度もワークグループによる意見交換の機会を設けたいと考えている。
達成目標	「学習のつながり」を意識した授業づくりについての研修の実施
	年間3回以上
方 策	・3学年単位の10人程度のワークグループで、発達段階に応じた指導・支援の在り方について意見交換をする場を設ける。 ・意見交換で出た意見を参考にした授業実践を行う。公開する授業実践の期日を事前に告知する。 ・意見交換の内容や授業実践の様子などを共有するため、記録の閲覧や授業参観、動画視聴等を行う。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和8年度 高岡支援学校アクションプラン - 2 -	
重点項目	学校生活（寄宿舎）
重点課題	寄宿舎生徒が安心・安全に過ごせるための、防災に関する知識・技能の向上や環境整備の在り方
現 状	今年度、寄宿舎には中学部8名、高等部32名の計40名が入舎し、週に一泊から三泊程度、寄宿舎で協同生活を送っている。一日に舎泊する生徒は、一日平均11, 2名で、夜間は寄宿舎指導員5名、舎監1名で対応している。 寄宿舎では、防災に関する避難訓練を年間3回実施し、各学期始めに避難経路の確認、防災ヘルメットを着ける練習を行っている。寄宿舎指導員は月に一度防災ミーティングを行うなど、防災意識は高い。 大きな災害が起こった際に、夜間でも安全に避難誘導をしたり、安全の確保ができる場所で避難生活を送ったりすることについて不安を感じている職員も多い。また、舎生については、訓練の中で職員の指示に従って落ち着いて避難することはできているが、舎生自身が避難の方法や避難生活について、考えて行動することについては経験していない。
達成目標	寄宿舎生及び指導員、舎監の防災（主に地震）に関する知識や技能の向上を目指した訓練や研修等の実施
	年間5回以上
方 策	・寄宿舎がある他校の取組状況を情報収集し、防災の在り方について職員間で研修の機会を設定する。 ・避難訓練の内容として、夜間の避難や避難生活する模擬体験を交え、事後に生徒や職員で振り返り、安全な避難や避難生活で大切なことについて考える時間を設定する。 ・安心、安全に避難や避難生活をするための必要な道具や備品、設置場所等を考え、環境整備を行う。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）